

Analytics Systems FXSE では、実需と投機が為替レートに与えた影響を分析する材料として、3つの独自指数を提供しております。

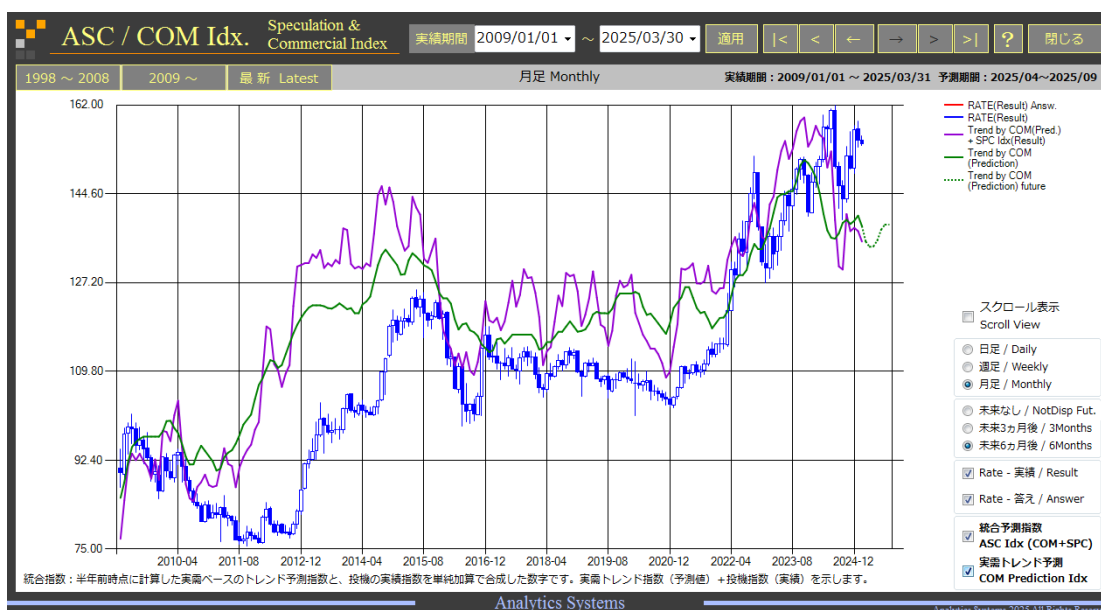
本資料では、過去25年分について、FXSE独自の指数

- ① 実需指数/COM …半年前の時点で予測していた数値
- ② 投機指数/SPC …実績数値（予測はございません）
- ③ 実需・投機合成指数/ASC

と結果のドル円為替レートのチャートをご紹介します。

また、当資料では各年のドル円値動きとFXSE指数の相関性について、解説コメントも掲載しております。

FXSEが提供する独自の指数が皆様のお役に立つものかどうか、ご判断いただく材料になれば幸いです。



巻末の「当資料をご利用にあたっての注意事項等」を必ずお読みください。
※画面の一部が最新版と異なる箇所がありますが、表示される指数は同一です。



1999

2月に投機主体の急激な円安が発生し、その時は実需予測が外れる形となりました。その後の「6月をピークに円高方向に変わり下落」の予測は、ちょうど投機の偏りがピークを迎えた事もあり、実需予測通りとなる展開になりました。ASCもよく合致している事から、実需+投機が形造った値動きである事が確認できます。

実需指数 COM Index

実需は、半年前の時点で
予測していた値です



投機指数 SPC Index

投機は実績値です
(予測はありません)

投機の週足は、水曜日の朝から
翌週水曜日の朝までです。



実需・投機合成指数 ASC Index

実需予測と投機実績を
合成表現する指数です





2000

最初は急に、そして徐々に円安推移になる予測でした。投機の上下動が影響して年間中盤の円安更新はなかったものの、下値の切り上げという形で上昇基調が現れており、実需予測も一定の効果が出ている事が分かります。2000年もASCがよく合致している事から、実需+投機が形造った値動きである事が確認できます。

実需指数 COM Index

実需は、半年前の時点で
予測していた値です



投機指数 SPC Index

投機は実績値です
(予測はありません)

投機の週足は、水曜日の朝から
翌週水曜日の朝までです。



実需・投機合成指数 ASC Index

実需予測と投機実績を
合成表現する指数です





2001

実需予測はゆるやかで一本調子の円安方向というものでしたが、投機の推移が下落基調で途中急落した事もあり、投機に引っ張られて一本調子とはいかない結果となりました。ただ、年後半にかけての円安基調は実需予測推移の通りとなっていて、「短期は投機、中長期は実需」のセオリーを映し出す値動きとなっていた事が分かります。

実需指数 COM Index

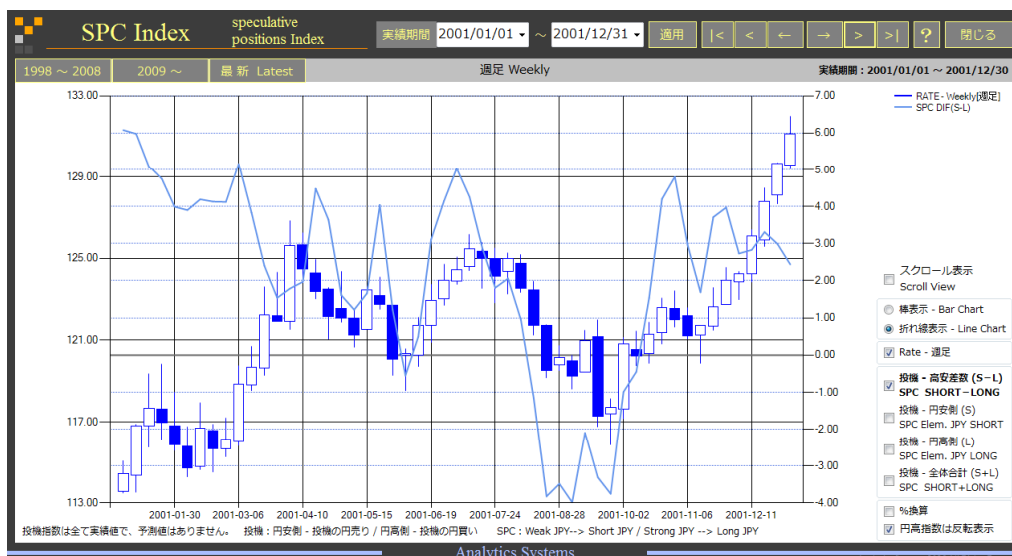
実需は、半年前の時点で
予測していた値です



投機指数 SPC Index

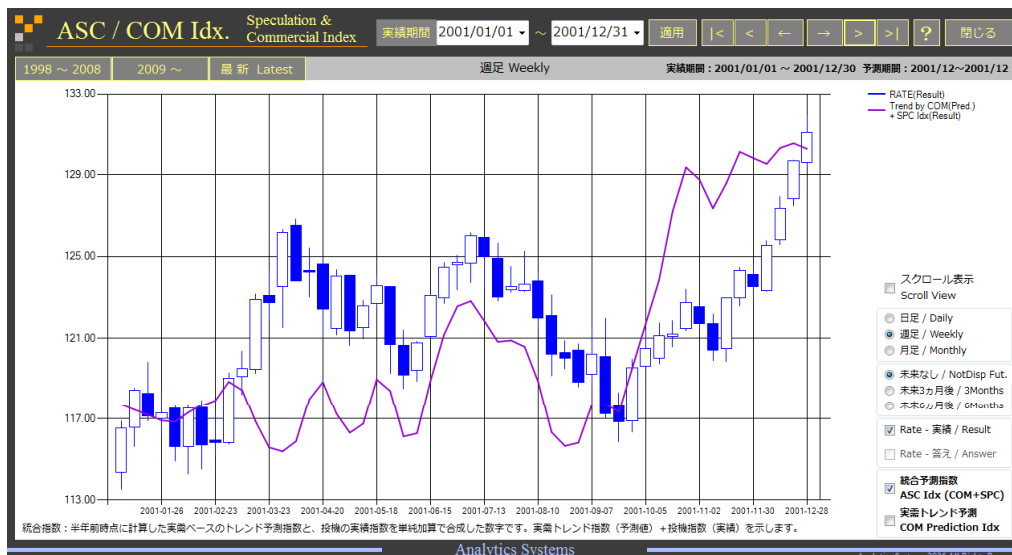
投機は実績値です
(予測はありません)

投機の週足は、水曜日の朝から
翌週水曜日の朝までです。



実需・投機合成指数 ASC Index

実需予測と投機実績を
合成表現する指数です





2002

前年から続く円安がピークアウトし、その後は年末まで円高方向に向かうという予測でした。8月ごろにかけて、実需とともに投機も円高方向に推移し急激な円高となりましたが、途中9月に投機の円安が始まり、一時的に盛り返す結果となりました。しかしながら11月には投機が反転、結果的に実需予測が概ね合致しています。

実需指数 COM Index

実需は、半年前の時点で
予測していた値です



投機指数 SPC Index

投機は実績値です
(予測はありません)

投機の週足は、水曜日の朝から
翌週水曜日の朝までです。



実需・投機合成指数 ASC Index

実需予測と投機実績を
合成表現する指数です





2003

実需予測は「4月から9月まで円高推移、その後少し盛り返すもまた下落」というものでした。投機の上下動により多少時期が後ずれしたものの、実需予測も概ね中長期で実用に耐える結果となりました。

※実需予測が時期ずれする場合、遅れるよりは良いとの観点から、早め方向にずれる様に調整されています。

実需指数 COM Index

実需は、半年前の時点で
予測していた値です



投機指数 SPC Index

投機は実績値です
(予測はありません)

投機の週足は、水曜日の朝から
翌週水曜日の朝までです。



実需・投機合成指数 ASC Index

実需予測と投機実績を
合成表現する指数です





2004

実需指数では年前半に円高推移の予測でしたが、投機の影響が大きく出て、結果としては突出ありの横ばい・やや円安の推移でした。この様に、投機の方が規模が大きいと実需の推移がかぶせられる事があります。ASCがよく合致していますので、実需と投機が形造った値動きであったことが分かります。

実需指数 COM Index

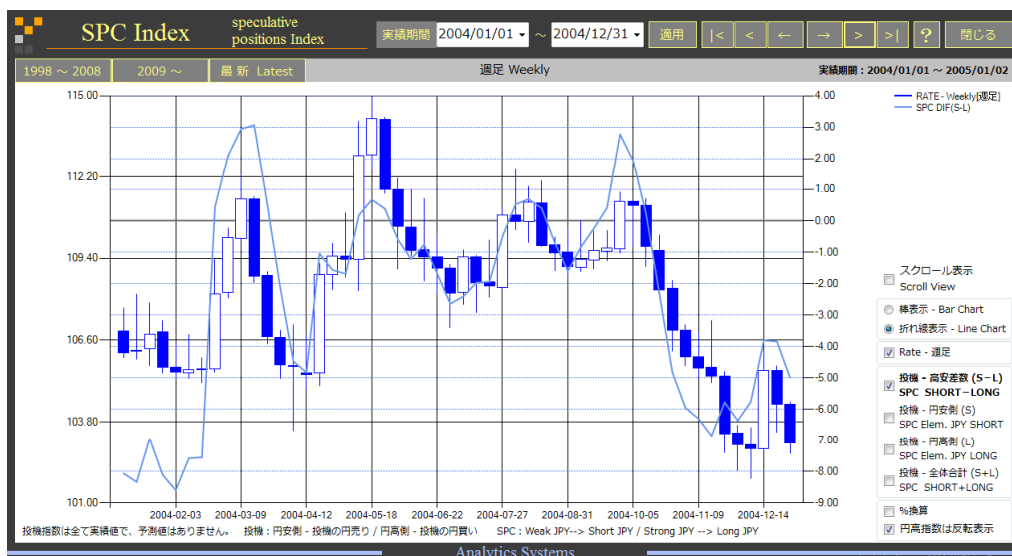
実需は、半年前の時点で
予測していた値です



投機指数 SPC Index

投機は実績値です
(予測はありません)

投機の週足は、水曜日の朝から
翌週水曜日の朝までです。



実需・投機合成指数 ASC Index

実需予測と投機実績を
合成表現する指数です



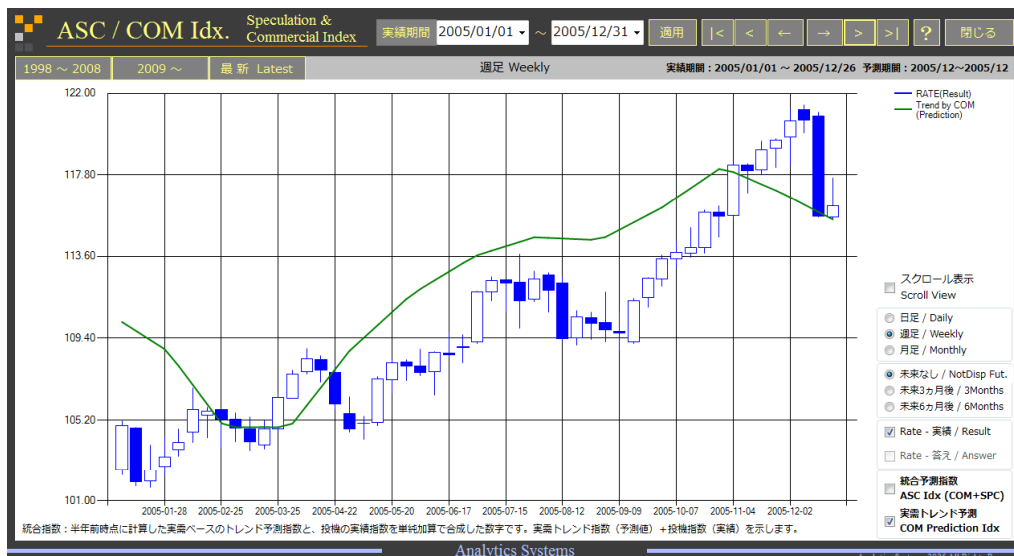


2005

実需指数では1月は円高予測でしたが、投機の影響が大きく出て、結果としては円安に振れました。ASCがよく合致していますが、11月は実需・投機ともに低下または横ばいなのに対しドルの上昇が続きました。日本企業による海外企業の買収資金手当てや、海外企業による収益金の回収が行われた可能性があります。

実需指数 COM Index

実需は、半年前の時点で
予測していた値です



投機指数 SPC Index

投機は実績値です
(予測はありません)

投機の週足は、水曜日の朝から
翌週水曜日の朝までです。



実需・投機合成指数 ASC Index

実需予測と投機実績を
合成表現する指数です





2006

実需指数は3～4月に円安の予測であったものの、3月に量的金融緩和政策が解除された結果、実際は横ばいか投機主体の突出した円高という結果でした。7月には持ち直して11月に高値更新できたものの、金融政策の変化に伴う為替ヘッジ設定等、実需・投機だけでは再現できない、債券等投資市場の影響が表れた年でした。

実需指数 COM Index

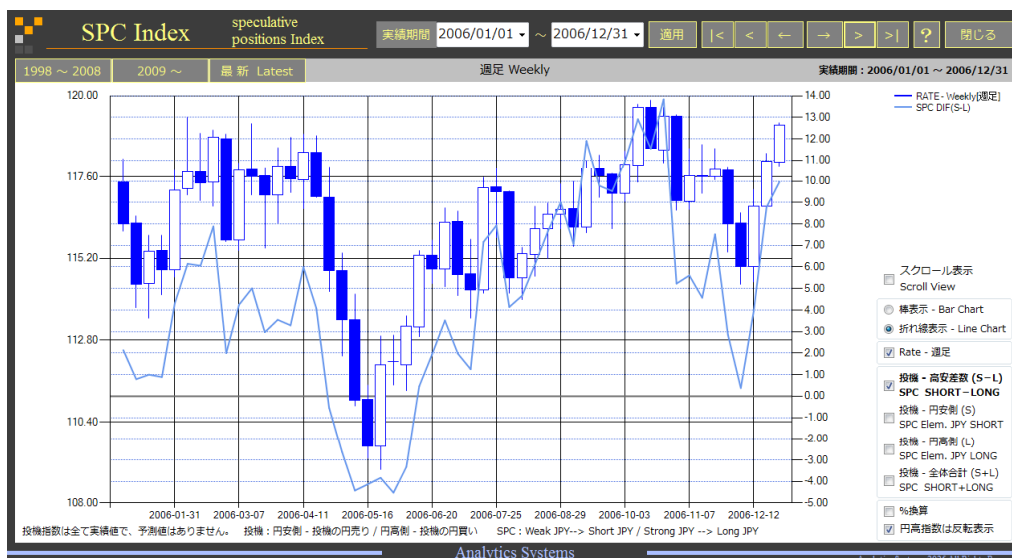
実需は、半年前の時点で
予測していた値です



投機指数 SPC Index

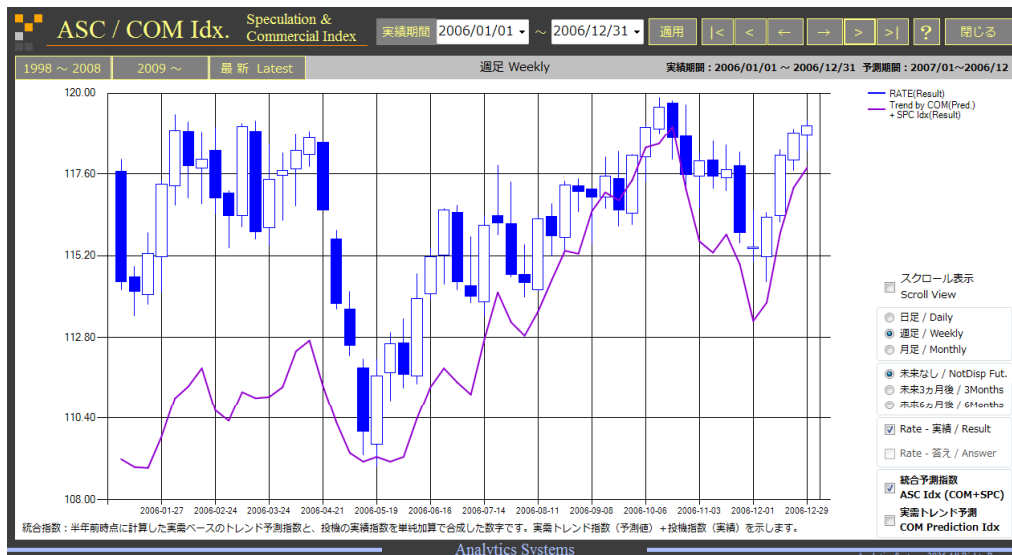
投機は実績値です
(予測はありません)

投機の週足は、水曜日の朝から
翌週水曜日の朝までです。



実需・投機合成指数 ASC Index

実需予測と投機実績を
合成表現する指数です





2007

ミニバブルと評された2007年は、実需予測がほぼ横ばいであったことから、投機主導の値動きとなりました。予測という観点では年終盤の、2008年初頭まで続く円高推移予測が役に立ったとは言えます。2007年もASCがよく合致していることから、実需+投機が形造った値動きである事が確認できます。

実需指数 COM Index

実需は、半年前の時点で
予測していた値です



投機指数 SPC Index

投機は実績値です
(予測はありません)

投機の週足は、水曜日の朝から
翌週水曜日の朝までです。



実需・投機合成指数 ASC Index

実需予測と投機実績を
合成表現する指数です





2008

リーマンショックが起こった年です。主に投機・投資系で金融崩壊が起きたため、清算一色となった9～10月の下落（円高方向）と実需による推移予測（円安方向）が乖離してしまいました。ASCが概ね合致していることから実需+投機が形造った値動きであると見る事もできますが、投機・実需以外の要素、「投資清算」による下落の反映が不足しています。

実需指数 COM Index

実需は、半年前の時点で予測していた値です

2008年の金融市場崩壊では、実需の支払先・請求先自体が破綻して無くなっている事があったため、特に10月以降、大きくかい離する結果となりました。

この規模の消失は最初で最後となっていて、2008年10月に生じた指数チャートの段差は、永遠に埋まる事のないものとなりました。

投機指数 SPC Index

投機は実績値です
(予測はありません)

投機の週足は、水曜日の朝から翌週水曜日の朝までです。

実需・投機合成指数 ASC Index

実需予測と投機実績を合成表現する指数です





2009

リーマンショック翌年です。金融市場の崩壊による消失が一段落したものの、実需には不景気の波が押し寄せて来ました。FXSEの実需予測計算式は過去からの推移を使用しますので、市場消失の影響が加味できておりません。そのため、年後半は横ばいの予測に対し円高基調となり、予測が外れる結果となりました。

実需指数 COM Index

実需は、半年前の時点で
予測していた値です



投機指数 SPC Index

投機は実績値です
(予測はありません)

投機の週足は、水曜日の朝から
翌週水曜日の朝までです。



実需・投機合成指数 ASC Index

実需予測と投機実績を
合成表現する指数です





2010

各国の金融緩和策などで金融市場は落ち着きを取り戻しました。それに伴い、実需予測も再び有効になってきましたが、全体的に1カ月程度早い予測になってしまい、実需予測指数と結果の為替レートにずれが生じる結果となりました。※遅れるよりは良いという思想で、ずれが生じる場合は早い方向にずれる様に調整されています。

実需指数 COM Index

実需は、半年前の時点で
予測していた値です



投機指数 SPC Index

投機は実績値です
(予測はありません)

投機の週足は、水曜日の朝から
翌週水曜日の朝までです。



実需・投機合成指数 ASC Index

実需予測と投機実績を
合成表現する指数です





2011

東日本大震災が起こった年です。4月までは実需予測が合致していましたが、それ以降は円安基調の予測に対し実際は円高推移となりました。これは主に、再建資金や支払保険金の手当てによる、海外資産の取崩し送金分と想定されます。実需・投機以外の要素が大きく影響したため、ASCが合致しない結果となりました。

実需指数 COM Index

実需は、半年前の時点で
予測していた値です



投機指数 SPC Index

投機は実績値です
(予測はありません)

投機の週足は、水曜日の朝から
翌週水曜日の朝までです。



実需・投機合成指数 ASC Index

実需予測と投機実績を
合成表現する指数です





2012

2012年は大震災に伴う資金手当ての需要が一巡し、実需・投機ともに同じ様な推移をたどり、ASCもよく合致する結果となりました。実需指数/COMは半年前の時点で予測表示していますので、「次の一手」を考えると、その推移が非常に役に立った年となりました。

実需指数 COM Index

実需は、半年前の時点で
予測していた値です



投機指数 SPC Index

投機は実績値です
(予測はありません)

投機の週足は、水曜日の朝から
翌週水曜日の朝までです。



実需・投機合成指数 ASC Index

実需予測と投機実績を
合成表現する指数です





2013

日本銀行の方針転換で、金融緩和が開始された年です。前半は「緩和期待の円安」と言われつつも、実需が起こしていた円安であったということが観察できます。年末は、投機指数が低位であったところで追加緩和が行われて投機指数が急上昇、円安が進むという結果になりました。「年初は実需、年末は投機」の円安でした。

実需指数 COM Index

実需は、半年前の時点で
予測していた値です



投機指数 SPC Index

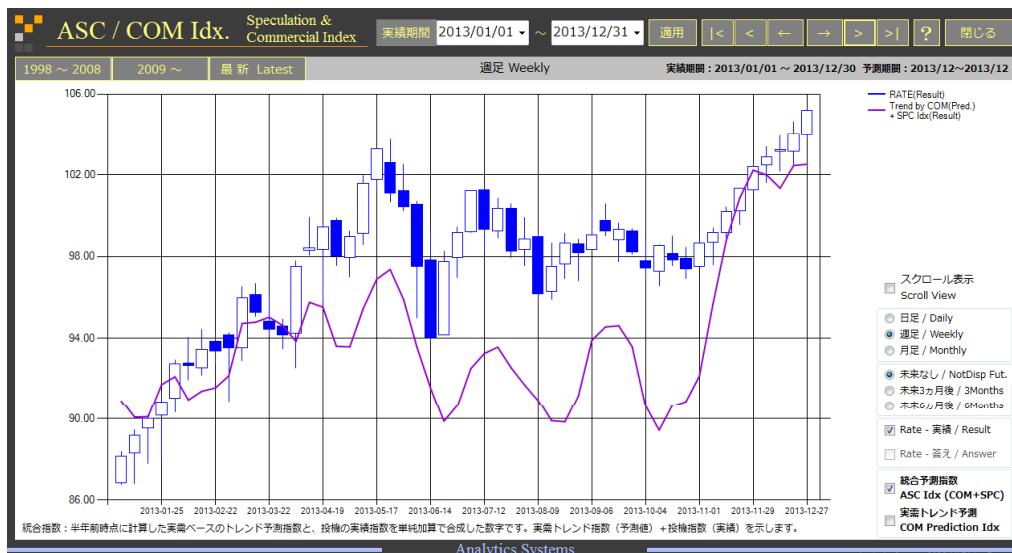
投機は実績値です
(予測はありません)

投機の週足は、水曜日の朝から
翌週水曜日の朝までです。



実需・投機合成指数 ASC Index

実需予測と投機実績を
合成表現する指数です





2014

日本銀行の追加緩和が行われ、大きく円安になった年です。実需予測も円安推移となっていました、11月以降は円高推移となっていました。実際は10月末に追加緩和が行われ、投機指数が上昇して大きく円安になりました。この規模の緩和ですと円安側の為替ヘッジも入りますので、ASCの推移に比してさらに大きな円安となりました。

実需指数 COM Index

実需は、半年前の時点で
予測していた値です



投機指数 SPC Index

投機は実績値です
(予測はありません)

投機の週足は、水曜日の朝から
翌週水曜日の朝までです。



実需・投機合成指数 ASC Index

実需予測と投機実績を
合成表現する指数です





2015

実需予測で1~2月は円高推移の予測でしたが、2014年末に行われた追加緩和の余波で、2015年の2~3月にかけて為替ヘッジの設定が観測され、実際は下落後に上昇となりました。年後半はやや2016年の円高を先取りする形になったものの、緩やかに上値を切り下げる展開が予測できています。

実需指数 COM Index

実需は、半年前の時点で
予測していた値です



投機指数 SPC Index

投機は実績値です
(予測はありません)

投機の週足は、水曜日の朝から
翌週水曜日の朝までです。



実需・投機合成指数 ASC Index

実需予測と投機実績を
合成表現する指数です





2016

英国のEU脱退（ブレグジット）が決定した年です。実需予測では円高推移となっており、実際に前半は投機が横ばいである分、実需主導となって円高推移でした。11月以降は投機主導で大きく円安になり、実需の予測では外れる結果となりました。ASCがよく合致していることから、実需+投機が形造った値動きであったと言えます。

実需指数 COM Index

実需は、半年前の時点で
予測していた値です



投機指数 SPC Index

投機は実績値です
(予測はありません)

投機の週足は、水曜日の朝から
翌週水曜日の朝までです。



実需・投機合成指数 ASC Index

実需予測と投機実績を
合成表現する指数です





2017

前半は実需予測は「下落～最終的に上昇」でしたが、投機下落の影響して実際は上値を切り下げる結果となりました。年後半は実需が無風（横ばい）となっており、完全に投機主体での上下動のみになっています。前年末の急激な投機円安の巻き戻しと一緒に見ると、ASCが実体と合致した、有効な予測になっています。

実需指数 COM Index

実需は、半年前の時点で
予測していた値です



投機指数 SPC Index

投機は実績値です
(予測はありません)

投機の週足は、水曜日の朝から
翌週水曜日の朝までです。



実需・投機合成指数 ASC Index

実需予測と投機実績を
合成表現する指数です





2018

実需予測と投機がほぼ同一で推移した年となりました。

実需推移は半年前の時点で予測していたものである事を鑑みますと、予測が非常に役に立ったと言えます。

ASCがよく合致している事から、実需+投機の2大要素が形造った値動きである事が確認できます。

実需指数 COM Index

実需は、半年前の時点で
予測していた値です



投機指数 SPC Index

投機は実績値です
(予測はありません)

投機の週足は、水曜日の朝から
翌週水曜日の朝までです。



実需・投機合成指数 ASC Index

実需予測と投機実績を
合成表現する指数です





2019

実需指数は4~6月に横ばいの予測を出していましたが、実際は投機主導で6円程度下落していました。実需が横ばいであった分、完全に投機主導となったイメージです。ASCがよく合致していることから、実需+投機が形造った値動きである事が確認できます。

実需指数 COM Index

実需は、半年前の時点で
予測していた値です



投機指数 SPC Index

投機は実績値です
(予測はありません)

投機の週足は、水曜日の朝から
翌週水曜日の朝までです。



実需・投機合成指数 ASC Index

実需予測と投機実績を
合成表現する指数です





2020

コロナウィルスが問題になった年です。実需予測が年中盤から緩やかな円高方向となっていました。投機が上下動に留まっていた分、実需主導での値動きとなり、予測がよく合致する結果となりました。ASCがよく合致していることから、実需+投機が形造った値動きである事が確認できます。

実需指数 COM Index

実需は、半年前の時点で
予測していた値です



投機指数 SPC Index

投機は実績値です
(予測はありません)

投機の週足は、水曜日の朝から
翌週水曜日の朝までです。



実需・投機合成指数 ASC Index

実需予測と投機実績を
合成表現する指数です





2021

コロナショック翌年です。人流停止による市場消失が一段落したものの、リーマンショック翌年と同様、FXSEの実需予測計算式は過去からの推移を使用しますので、市場消失の影響が加味できておりません。

そのため、年後半は円高基調の予測に対し、横ばい+突出形の投机円安となり、予測が外れる結果となりました。

実需指数 COM Index

実需は、半年前の時点で
予測していた値です



投机指数 SPC Index

投机は実績値です
(予測はありません)

投機の週足は、水曜日の朝から
翌週水曜日の朝までです。



実需・投机合成指数 ASC Index

実需予測と投机実績を
合成表現する指数です



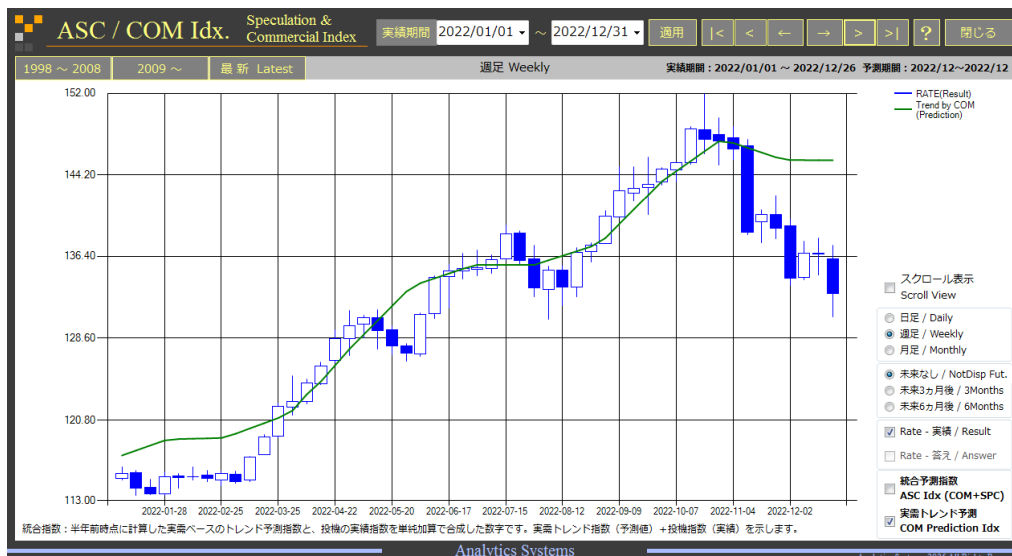


2022

実需予測は、一方的かつ大きな円安になる予測でした。投機は上下動にとどまっていることから、実需の予測が大いに役だった年となりました。コロナショックによる予測不良も、リーマンショック時と同様翌年で終息しています。2022年も、ASCがよく合致していることから、実需+投機が形造った値動きである事が確認できました。

実需指数 COM Index

実需は、半年前の時点で
予測していた値です



投機指数 SPC Index

投機は実績値です
(予測はありません)

投機の週足は、水曜日の朝から
翌週水曜日の朝までです。



実需・投機合成指数 ASC Index

実需予測と投機実績を
合成表現する指数です





2023

2022年から続いた大きな円安の流れが止まることなく、引き続きさらに大きく円安になった1年でした。ここ20年では未知の領域に入りましたが、実需指数も未知の領域まで大幅上昇で、予測は正しかったと言えます。2022年に引き続き、ASCがよく合致していることから、実需+投機が形造った値動きである事が確認できます。

実需指数 COM Index

実需は、半年前の時点で
予測していた値です



投機指数 SPC Index

投機は実績値です
(予測はありません)

投機の週足は、水曜日の朝から
翌週水曜日の朝までです。



実需・投機合成指数 ASC Index

実需予測と投機実績を
合成表現する指数です





2024

2年間続いた実需指数の円安傾向が終了し、一転して円高基調の予測でした。しかし、ここ2年の円安が止まらず「1ドル200円まで進むのでは？」等が囁かれていましたので、ドル安為替ヘッジの解除等、実需・投機だけでは再現できない要素が強く出て、前半は予測が外れる結果となりました。「後付けの為替ヘッジ」に要注意です。

※「後付けの為替ヘッジ」
投資の開始時はヘッジなしで、
為替推移を見て後からヘッジ
設定・解除を行う行為を
指しております。
FXSE実需予測の計算式に
加味できていない事象です。

実需指数 COM Index

実需は、半年前の時点で
予測していた値です



投機指数 SPC Index

投機は実績値です
(予測はありません)

投機の週足は、水曜日の朝から
翌週水曜日の朝までです。



実需・投機合成指数 ASC Index

実需予測と投機実績を
合成表現する指数です





重要事項

Important Notice

当資料をご利用にあたっての注意事項等

当資料は、日本アナシス合同会社および私設研究所「Analytics Systems Laboratories」（以下、両組織を総称して「アナリティクス・システムズ」といいます）が提供しています。

当資料に掲載されている情報には、予測など将来の見通しに関する事項が含まれている場合があります。こうした事項には一定のリスクや不確実性などが含まれており、経済情勢や市場の動向の変化等により、実際の結果とは必ずしも一致するものではありません。

当資料には過去の実績精度について具体的な数字を示している箇所がありますが、今現在および未来の精度を保証するものではありません。

当資料に掲載されている情報には、アナリティクス・システムズ独自または一般的に認知されていない見解が含まれている場合があります。見解の掲載に際して、アナリティクス・システムズではその信頼性を客観的な根拠となるデータで確認し情報提供の様に努めておりますが、見解が事実である事を証明する義務はありません。

当資料掲載の情報は、利用者に特定の取引を行うことを推奨するものではありません。当資料掲載の情報は、有価証券、金融商品の推奨もしくはその売買の申込み・申込みの勧誘、または特定の投資戦略をとる・ヘッジ含む投資行為を行うことの勧誘とみなされてはならないものとします。

当資料に掲載している情報には細心の注意を払っておりますが、アナリティクス・システムズは、情報の内容の正確性、完全性、現在の情勢・状況に対応していること（アップ・ツー・デート）、特定目的への適合性、権利の不侵害について、明示・黙示を問わず、一切保証せず責任を負わないものとします。

さらに、アナリティクス・システムズは、いかなる場合においても、その可能性について告知されていたかどうかを問わず、特別損害、間接損害、付随損害、結果損害を賠償する義務を負いません。当資料の内容に関して、アナリティクス・システムズに賠償責任は存在せず、使用についての賠償責任もアナリティクス・システムズにはありません。利用者は、利用者が当資料掲載の内容を依拠とされた場合でも、アナリティクス・システムズは一切の責任・賠償義務を負わない事をご承知おきください。

当資料に含まれる著作物（図解・チャート図・文章等の情報の全てを含みますが、これらに限るものではありません）は、特に明示された場合を除いて、アナリティクス・システムズが所有しております。

当資料に掲載されているアナリティクス・システムズの商品・サービス名称はアナリティクス・システムズの商標または登録商標です。その他の社名、商品名、サービス名などは、各社の商号、商標または登録商標です。

Analytics Systemsについて

About Our Company

当社および研究所のご案内

下記ウェブサイト「Analytics Systems について」ページをご覧ください。

また、「資料ダウンロード」ページより、当社・研究所のご案内をダウンロード頂けます。

<https://nihon-anasys.co.jp/company-overview/>

お問い合わせは・・・

下記ウェブサイト「Analytics Systems お問い合わせ」ページから、お問い合わせください。

<https://nihon-anasys.co.jp/inquiry/>